



○ 勝山市の保育料について
○ 長尾山総合公園について

市議会
帰山 寿憲 議員



議 一部負担の残る、保育料を完全無償化してはどうか。

理 本市は子育て支援日本一をスローガンに掲げ、保育料についても常に県内のトップクラスを目標に軽減策を進めてきた。

本市の保育料徴収の現状は、3歳以上児については完全に無償化。3歳未満児については、第1子住民税非課税世帯のみが無償。第2子は世帯収入640万円未満の世帯が無償。第3子以降は世帯年収に関係なく完全に無償となっている。福井県では、令和6年9月から第2子以降は世帯年収に関係なく完全無償化すると発表されている。

これが施行されると、来年9月からは3歳未満児の第1子の住民税非課税世帯以外の児童だけが保育料無償化の対象から外れることになる。保育料軽減策は、子育て支援という観点から長年進めてきたが、少子化対策という観点から更に充実する必要があると考える。来年9月の福井県の制度拡充に併せ、さらに制度を拡充し、市内全就学前児童の保育料完全無償化について前向きに検討したい。

議 園内工事の進捗に伴い、園内の君原健二ロードをどうするのか、また、2期エリアの取得にむけての状況、及びP2事業の進捗状況を伺う。

理 現在進めているP2事業では宿泊施設整備予定箇所周辺も君原健二ロードのコースの一部となっているため、代替ルートを設定することでご利用いただけるよう、工事事業者や指定管理者と協議を進めていく。

2期エリアの活用については、P2事業の公募条件でも提案を可能とした。事業者から現在、具体的な提案はないが、将来的には自然を生かした体験施設など様々な可能性を協議していきたい。

市が長尾山総合公園でP2事業の公募をした際、ホテル、レストラン、遊戯施設の3つはしていたきたいという公募条件だった。特にホテル事業が投資額も大規模になる中、市としてもホテルを最優先で進めている。この3つを軸に、場所等もエリアは大体決まっているが、具体的な場所等示されていないところがあるので、しっかりと協議を進めたい。



○ 100年に一度のチャンス
○ 観光戦略について

新風会・公明
松山 信裕 議員



その他の質問

- ・来訪者への対応と夏の行事について
- ・福祉政策について

議 勝山市は、100年に一度の大きなチャンスを迎えている。今年には恐竜博物館のリニューアル、来年には北陸新幹線開業、令和7年は平泉寺の御開帳、令和8年は中部縦貫自動車道の開通、県立大学の開校、星野リゾート、令和9年は新中学校の開校とビッグプロジェクトが次から次に計画されている。このような劇的な変化をどのように捉え、各事業対策に取り組んでいくのか伺う。

理 高速交通網の整備は天の時、恐竜資源が出てきているのは地の利だと思っている。市内の観光事業者、まちづくり関係者、福井県、近隣市町の人の和が揃っている。こういったことが、100年に一度のチャンスと考えている。恐竜以外にも、白山平泉寺、スキージャム勝山、ゆめおーれ勝山など、文化施設、観光施設がしっかりと整備されている。この観光誘客、周遊観光の促進によって、地元経済の好循環が生まれるよう、観光の産業化を図りたい。観光資源をさらに磨き上げ、若者のふるさと帰郷、移住促進にも生かしていきたい。

議 社会情勢を視野に入れた勝山市の観光振興ビジョン策定に向けた進捗状況を伺う。観光資源の活用と、多様化する観光客へのニーズ対応から、着地型旅行商品の開発と旅行業の取得をすべき。

理 勝山市観光振興ビジョンについては、観光を取り巻く環境の変化に対応した計画、将来像が必要であると考えており、進捗状況としては、素案が出来上がりつつある状況。今後、早急に素案を固め、勝山観光戦略協議会にて意見を伺い、原案を策定し、本年中には新しい勝山市観光振興ビジョンをお示しできるように取り組んでいく。

勝山市観光まちづくり株式会社は旅行業の資格を有するスタッフが退職し、法人としての旅行業の登録はない。今後の北陸新幹線の福井開業や中部縦貫自動車道の県内全線開通により、観光客の増加が見込まれる中、着地型旅行商品を企画・販売することが必要だと考えている。旅行業の登録についてもDMOが意欲的であると聞いており、市としても、DMOの取組に期待している。